

# 令和 2 年度事業計画

社会福祉法人 翡翠会



# 社会福祉法人 翡翠会

## 法人の理念

「地域と共に生きる」

## 翡翠会行動指針

「3つの顧客、3つのLIFEの最大化」

### 3つの顧客

- ・利用者様…翡翠会のサービスを利用する方々
- ・地 域…大網白里市をはじめ山武郡市の地域住民
- ・職 員…翡翠会に勤務する職員

### 3つのLIFE

- ・生 命…健康管理
- ・生 活…日常生活
- ・人 生…生きがい

### 利用者様への基本姿勢

- ・利用者様の意向を尊重して、多様な福祉サービスが総合的に提供されるよう創意工夫すること。
- ・利用者様個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成すること。
- ・利用者様の能力に応じ、自立した生活を地域で営むことができるよう支援すること。

### 翡翠会職員行動規範

- ・「清潔感」と「礼儀正しさ」
- ・「スピード」は誠意のあらわれ
- ・「普通感覚」を忘れない
- ・「エコ」～「お金」「もの」「人力」を大切に使う
- ・「能動性」～自ら気づき行動する勇氣
- ・「チームワーク」～自己任務遂行と多様性の尊重

## 事業計画

### 令和 2 年度法人目標

- ・災害に対する備えを強化する
- ・人材確保と定着の促進

### ○法人事務局

#### 実施事業

- ・理事会の意思決定に基づき、法人全体や各事業の計画的な進行管理を行う。
- ・収支状況等の法人の運営上の課題について情報を内外から収集し分析する。
- ・その結果について考えられる対応策を含め、理事長や理事会に報告。
- ・全施設・事業の経理・総務・人事の集約
- ・働き方改革への対応  
(パートタイム・有期雇用労働法、改正女性活躍推進法などの法令厳守)

#### 取り巻く環境

日本全体が抱えている人材不足。翡翠会でも、常に入所施設を中心に人員不足が見られる。中途採用を中心に採用活動をしているが、定着率が上がっていない。人選の強化と採用媒体の見直しを図ると共に、法人研修の見直しや入職後のアフターケア等、人材定着にも注力が必要である。

また政府は地域共生社会実現という目標を掲げている。縦割りの制度から貧困・介護・児童虐待・障がい者支援など多分野に渡り、複雑化するニーズに対応できる地域づくりが求められている。

山武・大網白里地域において、障がい福祉事業所と介護保険事業所を両方運営する法人は限られており、翡翠会に期待される役割は大きい。高齢障がい者や8050問題など、地域の既存資源からこぼれ落ちる利用者様のニーズに法人全体で応えることが大切であり、時代の要請に応える社会福祉法人たることが求められる。

加えて昨年度は台風による浸水被害や停電・断水、コロナウイルス感染拡大への対応など多くの災害に見舞われた。非常用自家発電設備や防災井戸の整備、物資の備蓄や職員の緊急対応等、災害時に備えたBCP策定が必要である。

#### 事業の重点項目

- ・「働き方改革」として、平日・日勤のみや時短勤務の正職員、夜勤専従職員を採用するなど多様な働き方を進め、人材の確保に努める。また非常勤職員の正

職員への転換や家庭環境を考慮した働き方の提案など、適材適所の人員配置が出来るよう環境を整える。

- ・職員旅行や食事会、クラブ・サークル活動への補助など事業所間交流を進め、職員間の親睦・連携強化を図る。
- ・法人研修の充実・見直しを行う。(これまでの全体研修・種別研修に加え、外部視察、アンガーマネジメント研修も計画する)
- ・新卒職員については、3月新卒研修、9月にフォローアップセミナーにてバックアップをしながら、来期新卒者への採用活動のフォローなど「あたらしい」目線での関り方でやりがいを求める。
- ・ホームページ・SNSでの広報活動で法人の魅力を最大限発信する。
- ・大網白里市住民協働事業終了後も「カフェかきつばた」や「子ども食堂」を継続し、法人の地域貢献への取り組みをPRする。
- ・異動についてはプラス評価を加え、昇給・賞与の査定に加える。
- ・山武みどり学園については新たな職種「総合支援員」を創設し、主任と同等級(4級)まで昇格出来るものとする。

## ○山武みどり学園

### 実施事業

- ・生活介護(定員50名)
- ・施設入所支援(定員40名)
- ・短期入所(定員8名)
- ・特定相談支援事業
- ・障害児等療育支援事業

### 取り巻く環境

山武圏域では重度知的障がいをお持ちの方を受け入れることのできる事業所は限られており、特に宿泊に対するニーズは依然として多い。地域にGHが複数開所しているが、現状としてホームへの入居ではなく、短期入所での一時的な宿泊を望まれている方が多いように思われる。

開所19年が経過し、入所利用者は高齢化してきている。また袖ヶ浦福祉センター縮小に伴う利用者の受け入れ等、地域における障害者支援施設「山武みどり学園」の役割も変化している。日課の変更など現状ニーズに合わせた見直しを行う必要がある。

昨年千葉県を直撃した台風15号の際には、3日間の停電・断水となった。室内は40℃近くの高温となり、日中利用者様は大網白里市中央公民館に避難させて頂いた。今後も台風をはじめとする自然災害は想定される。3市3町より

福祉避難所の指定を受けている以上、入所する利用者様はもちろん、地域で暮らす方々の避難先として、非常用発電設備など災害への備えが必要となる。

また昨年度職員の離職があり、十分な職員数が確保できていない。特に夜間支援の出来る女性職員の確保・定着が急務となっている。

#### 事業の重点項目

- ・重度知的障がいをお持ちの方にも、楽しんで取り組むことのできる活動の提案・環境整備等を行い、どなたにもやりがい・楽しみのある暮らしを提供できるようにしていきたい。そのためにも強度行動障害支援者養成研修未受講の職員は全員受講し、支援を検討する基礎知識の充実を図り、根拠に基づいた支援ができるようにする。

- ・職員の定着は引き続き課題で、特に女性職員の確保・定着が急務となっている。小さな子供のいる方でも安心して働くことが出来るよう、業務内容や勤務時間等の見直しを行う。

- ・センサーやカメラを含む ICT 技術を導入し、利用者様の安心・安全の向上と職員の少ない夜間帯における業務の負担軽減を図る。

- ・自然災害への備えとして、非常用発電設備・防災井戸の設置を行い、福祉避難所として地域貢献出来るようにする。

- ・施設設備の経年劣化に対しては、修繕・更新等迅速に行い、利用者様の QOL 維持向上に努める。

#### ○翡翠の宿一休

##### 実施事業

- ・短期入所（6名）

#### 取り巻く環境

地域の作業所等を利用されている方のご家族が高齢になってきていることから、将来の GH 入居を考慮しながらの宿泊利用を希望されている。

宿泊希望は多いが、不定期であり 1 泊利用も多いことから受け入れ準備や利用者様の状況把握が難しくなることもある。

#### 事業の重点項目

- ・安心して宿泊いただけるよう、山武みどり学園との連携を図る。
- ・作業所利用の方への日中活動の提案として、すえひろ工房やまぶきをご利用いただけるよう、送迎などの体制を整える。
- ・定期的にご利用いただける方を確保する。

## ○山武青い鳥工房

### 実施事業

- ・生活介護（定員30名）

### 取り巻く環境

山武圏域には通所事業所はやや不足している状況ではあるが、近隣市町村で事業所が増えている状況であり、複数の事業所を併用している利用者様も多くなっている。新規利用希望者の相談は数件あるも、利用までには至らない事が多い。

「共生型サービス」の指定を検討してきたが、現在の利用者数が満床になっていることと、申請等の課題が多くあり、共生型の指定については再検討が必要と判断している。

昨年度、特別支援学校からの実習生を4名受け入れた。卒業後の利用につながるよう、学校や相談支援事業所との連携を図っていく。

### 事業の重点項目

- ・新規利用者様を確保するため、相談支援事業所・特別支援学校へ働きかける。
- ・利用者様のニーズも多様になってきているため、個別の活動メニューを再検討するとともに、受注作業も継続して実施する。
- ・特別支援学校の実習を終えた方々が、卒業後に利用につながるよう、学校や相談支援事業所との連携を図っていく。
- ・福祉系大学や専門学校からの実習生を積極的に受け入れ、法人への就職につながる働きかけをする。

## ○山武青い鳥の家

### 実施事業

- ・放課後等デイサービス（定員10名）

### 取り巻く環境

山武圏域での放課後デイ事業所の増加は著しいものがある。ご家族様が利用する事業所を選べる環境は整いつつあり、事業所間の競争も激しくなっている。

袖ヶ浦特別支援学校だけでなく、他の支援学校でも医療的ケア児の受け入れの体制も整いつつある。

当放課後デイにも入学予定の方々の見学・問い合わせは多いが、医療的ケア児の保護者の問い合わせが多く、対応できる医療等の体制が整備されていない

状況であり、利用開始に至っていない現状である。

#### 事業の重点項目

- ・医療的ケア児の対応については検討・整備が必要であるが、他の障害をお持ちの方にも利用できるようにする。
- ・広報については「子ども食堂」も活用し、新規の利用児の確保に努める。
- ・療育活動メニューの充実。
- ・学校等関係機関との連携の強化。

#### ○カサ・ロサーダ

##### 実施事業

- ・共同生活援助（定員 6 名）

##### 取り巻く環境

平均年齢は 65 歳と高齢化が問題となっており、転倒や体調不良での通院が増えてきている。ホーム内での個別活動を設定するも、十分ではなく、休日に散歩に行くなど体を動かす機会を設けている。また 4 名の方が定期通院をしている為、医療機関と本会看護師との連携も益々重要となってくる。

#### 事業の重点項目

- ・地域との関わりが増えるよう、イベントへの参加をしていく。
- ・ホームでのイベント、個別外出を増やす。
- ・日用品の購入等は利用者様と一緒にいき、利用者様の好みの物をご自身で選んで頂く。
- ・日中活動先と連携し、体調不良時や怪我に対しての受診を迅速に行う。また、散歩など体を動かす機会を設け、身体機能の維持に努める。

#### ○すえひろ工房やまぶき

##### 実施事業

- ・生活介護（定員 20 名）

##### 取り巻く環境

1 年目の利用人数はなかなか伸びていかなかったが、2 年目には少しずつ事業所を認知してもらえるようになり、山武市・横芝光町を中心にご利用希望が増え、稼働率が 50%を超える月も出てくるようになった。しかし利用者数が増える一方で、人員や送迎の関係により新規利用者様はそれほど増えていない。



- ・大網白里市をはじめ、近隣の市町村や各種団体との協力、認知症カフェ、介護支援ボランティアの受け入れにより、地域の繋がりを深めると共に信頼関係を構築する。

- ・開所から 10 年を過ぎ、利用者様の増加や変化によって提供する支援も多様化してきている。職員間で情報共有を密に行い、利用者様ひとりひとりに日々対応していけるよう努めていく。ニーズに対応できるよう、将来的には増床・移転も検討していく。

- ・職員全体で会議や研修に参加する事で互いに学び合い、より良い支援を目指すことが出来るような環境を作り上げる。

## ○ほほえみの里かきつばた

### 実施事業

- ・認知症対応型共同生活介護、介護予防認知症対応型共同生活介護  
(定員 18 名)

### 取り巻く環境

平均年齢 87 歳 最高 98 歳 最低 73 歳 平均介護度 3.0

入居者様の高齢化が進み、身体・認知の機能低下が現れて、体調の急変もみられている。医療（医師、訪看）・家族の連携を深め、緊急時や看取りの体制を整えていく。

職員全員が入居者様へ対応ができるよう、勤務体制の変更やマニュアルの統一化を図り、1 年が経過した。対応・介護スキルには個人差があり、まだ課題がみられる。再度、入居者様の特性やケア方法の共有を図っていく。昨年、台風・豪雨による浸水や断水時の対応を反省し、各災害について具体的な対応や体制づくりを行う。

### 事業の重点項目

- ・かきつばたや居宅かきつばたとの連携を図り、入居対応にむすびつけていく。昨年前半は、利用者様の特養・サ高住への転居や死亡による退去が続き、空室の期間が長く続いた。待機者家族への連絡、状況把握をこまめにし、市や他事業所、民生委員への情報収集をおこない、早期に入居へつなげていく。

- ・台風、豪雨、地震、火災等災害毎に対応方法を整備する。施設職員だけでなく、家族・地区区長・消防団・消防署等、地域と意見交換し対応策を検討する。

- ・入居者様の高齢化・身体機能の低下に伴い、体調観察を通じて適切なケアを行い、安心して生活できるよう努める。医療機関・家族・職員で情報の共有を図っていく。

- ・研修に参加し、認知症への理解や医療の知識を深め、職員間で共有する。

- ・1階2階問わず、全職員が入居者様全員のケアを行う。チームケア向上のために職員の協力体制を固りつつ、職員会議をより有効にし、情報共有を進める。入居者様の状態変化に応じ、随時マニュアルを更新する。
- ・法人理念を実践するため、運営推進会議を活用する。地区行事へ参加も積極的に行う。
- ・ボランティアの受け入れや事業所PRを行い、グループホームに見学・関心を持って頂けるよう地域住民に働きかける。
- ・地域のニーズに応えるため、短期入所生活介護の開設準備を進める。

#### ○居宅介護支援事業所かきつばた

##### 実施事業

- ・居宅介護支援
- ・特定相談支援事業
- ・特定障害児相談支援事業

##### 取り巻く環境

要支援 24名 要介護 29名 障害 18名

年度末の要介護の利用者様は昨年度より1名減となっているが、入所や死亡利用者様が7名あり、新規相談は増えている。障がいから介護へ移行の方の相談も増えている。介護認定前の暫定や要支援の方、障がいから介護への移行、障がいの相談支援等、どのような状況の方でも受ける法人の特性を生かした支援が周知されつつある。

##### 事業の重点項目

介護サービス・共生サービス・障がい福祉サービスと多様なサービスを展開する本法人の特性を生かし、様々は状態の利用者様の在宅生活を支えることを推進していく。頂いた相談は、医療ニーズや介護度、介護・障がいサービスの併用、障がいから介護サービスへの移行、困難事例等に関わらず、お断りしないスタンスを今後も継続していく。

在宅生活が困難となった利用者様は小規模多機能かきつばた、ほほえみの里かきつばたと連携し、住み慣れた地域でいつまでも自分らしく生活することを未長く支援していく。

今年度から主任ケアマネ二人となった。より質の高いケアマネジメントの提供に努める。

千葉市・東金市など他地域の方も、引き続き相談が有れば積極的にお受けしていく。